

【江東区】

1人1台端末の利活用に係る計画

1. 1人1台端末を始めとするICT環境によって実現を目指す学びの姿

「教育推進プラン・江東（第2期）」では、プランの内容を「学び・育ち」「自分らしさ」「環境」「つながり」の4つのテーマで構成し、各テーマを推進するために「教育のICT化」を位置づけています。これまでの学校教育の実践を踏まえ、1人1台端末を活用し、教員が多くの児童・生徒の様子や意見を同時に把握し双方向で進める一斉授業に変化させていくことや、児童・生徒が1人1台端末を活用して、学習活動の充実と情報活用能力の育成をしてきました。家庭での学習については、学習支援クラウドサービスを活用するなど、学びの効率化・高度化を目指しています。

また、一人一人にあった教育を個別最適化していくことや、個をより大切にする学習が行われるように江東区の新しい学びのスタイル「KOTOスタイル」を示し、各教科等で育成すべき資質・能力の向上とともに、情報活用能力の育成を目指して学校教育におけるICT活用を推進してきました。

さらに、「こうとう学びスタンダード（ネクストステージ）」として、自ら学び続けるこどもの育成を目指して、各学校において個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図るための「授業スタイル」を設定しています。各教科等で育成すべき資質・能力の向上とともに、情報活用能力の育成を目指して学校教育におけるICT活用を推進してきました。

令和8年度4月のGIGAⅡ期開始にあたっては、第Ⅰ期における端末の懸念点であった重量について見直しを行い、児童・生徒がより使いやすい仕様としていきます。また、「ICT教育推進校」を指定することで、自ら学び続けるこどもの育成を目指し、教員・児童・学校全体に対する支援を行いながら、1人1台端末の積極的な利活用を一層推進していきます。

2. GIGA第1期の総括

【GIGA第Ⅰ期における実施内容と成果について】

① 児童・生徒と教師の情報活用能力の向上

児童・生徒と教師が、日常的にICT機器を活用してきました。そのことにより、児童・生徒は、1人1台端末の基本的な操作、文字入力、基本アプリの使用方法を習得しました。学校は、1人1台端末内のコンテンツを活用し、教室内の情報共有・協働作業が可能となったことで、保護者との双方向のやり取りや出欠連絡の効率化、通知文書のペーパーレス化等につながっています。

② 学習用コンテンツ及びインターネットへのアクセス制御

学習用コンテンツとして「ミライシード」や「MEXCBT」によるドリル教材や情報モラル教育に関するコンテンツを導入し、児童・生徒の学習環境及びネット社会に対する知識を得るための環境を整備しました。また、学習に関係のないサイトへのアクセスを防

止するため、不適切なサイトを随時ブロックしたり、各校に派遣しているICT支援員によるサポートをしたりしています。

③教員に対するICT教育研修や「オンラインマガジン」の発行、教員用ポータルサイトによる情報発信

1人1台端末や学習用コンテンツの使い方等についての研修を実施しています。授業改善を目指して、効果的な端末の活用方法や実践事例の紹介を行っています。また、教員に対して「KOTOオンラインマガジン」や「情報教育ポータルサイト」等を使って、最新の情報教育のコンテンツ紹介や実践事例を発信しています。

④情報教育専門委員による1人1台端末の活用の促進

江東区におけるICT教育を推進するため、小中学校の教員で構成された情報教育専門委員会を開催しています。ICTを活用した授業研究・授業公開を通して、1人1台端末の活用ガイドブック「GIGAスクールGuide」を作成するなど、ICT教育に関するさまざまな課題解決を図るための取組みを行っています。

【課題及び課題解決に向けた対応について】

①教員のICT活用指導力の向上

1人1台端末の導入を機に、区全体でICT教育の推進が図られていますが、教員のICT操作スキルのさらなる向上や新しいコンテンツへの対応等、ICT活用指導力の向上が必要です。各校の授業スタイルにICT活用を取り入れたり、ICT活用に関する研修を充実させたりする等、様々なサポートを検討・実施していきます。

② 1人1台端末の仕様と情報モラル教育

第Ⅰ期における端末の懸念点として、重さと耐久性が挙げられます。学校と家庭をつなぐための端末の持ち運びやデジタルドリルを活用した家庭学習等での使用頻度が多くなってきた背景から、第Ⅱ期では、軽量化と堅牢度を重視します。また、基本アプリの誤った使い方や個人情報の扱い、SNSのような使い方など、情報モラルの向上も求められます。デジタル教材を活用した情報モラル教育を推進していきます。

③ 1人1台端末の持ち帰りについて

児童・生徒の携行する荷物の多さ等についてご指摘があったことから、区から教材や1人1台端末の持ち帰りについての目安を保護者に示し、児童・生徒の登・下校時の負担軽減を行っています。

3. 1人1台端末の利活用方策

①1人1台端末の積極的な活用

GIGA第Ⅱ期においても、引き続き児童・生徒に1人1台端末の環境を確保するとともに、より一層の利活用を推進していきます。そのために、各校は「情報活用能力の育成に向けた全体計画」を作成し、年間を通して計画的に情報活用能力の育成を目指します。また、令和7年度から11年度の5年間をかけて、全校がICT推進校としてICT機器を活用した個別最適な学びの一層の推進を目的とした、効果的な活用方法等の研究を推進していきます。

②個別最適・協働的な学びの充実

「ミライシード」や「Google for Education」等の授業支援ソフトを活用して、児童・生徒が学習を調整したり、他者参照したりして主体的に学びに向かう学習スタイルを推進します。そのために、教員は、児童・生徒一人一人の特性や学習進度等に応じて、指導方法・教材等を工夫したり、学習コンテンツを活用して共同編集や他者参照をしながら考えを深めたりして個別最適・協働的な学びの実現を目指します。

③学びの保障

江東区では、全てのこどもたちが安心して学び、「みんな、かがやく！」をテーマとして、「KOTOこどもかがやきプラン」を設定しています。その中で、「誰もが安心して学べる環境づくり」として、オンライン授業や仮想空間（メタバース）を活用したバーチャルラーニングプラットホーム等、多様な学びの場の創出を推進しています。